

定 期 作 況 報 告

平成22年 9 月
(9 月 20 日 現 在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

8月下旬：最高気温、最低気温、平均気温は、ともに平年より極めて高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比202%）。日照時間は平年並であった（平年比90%）。

9月上旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温および平均気温は平年より高かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比66%）。日照時間は平年並よりやや多かった（平年比127%）

9月中旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年より高く、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より少なかった（平年比55%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比122%）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は平年と比較して、気温が高く、降水量および日照時間は平年並であった。

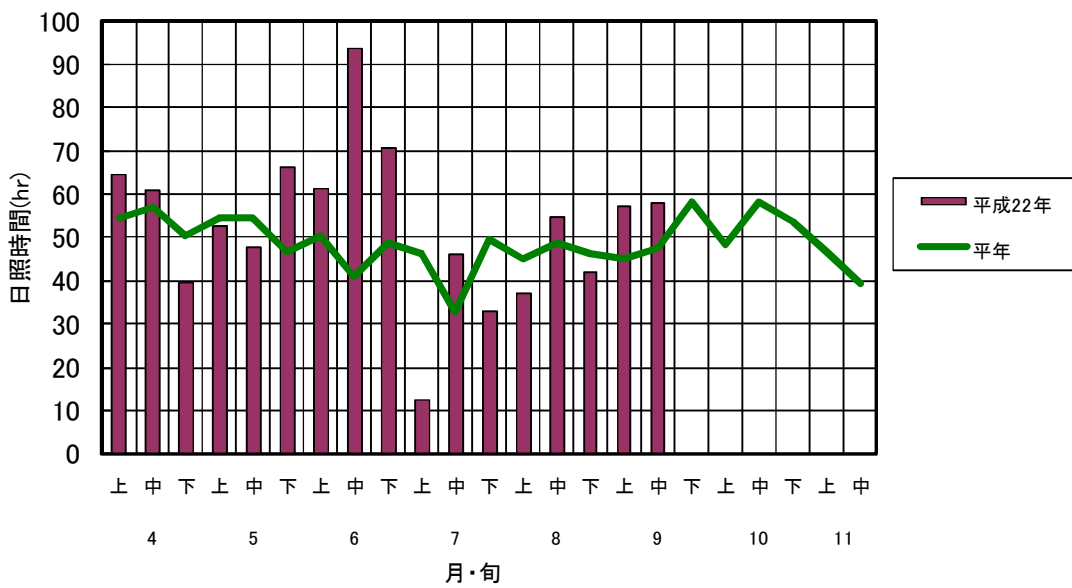
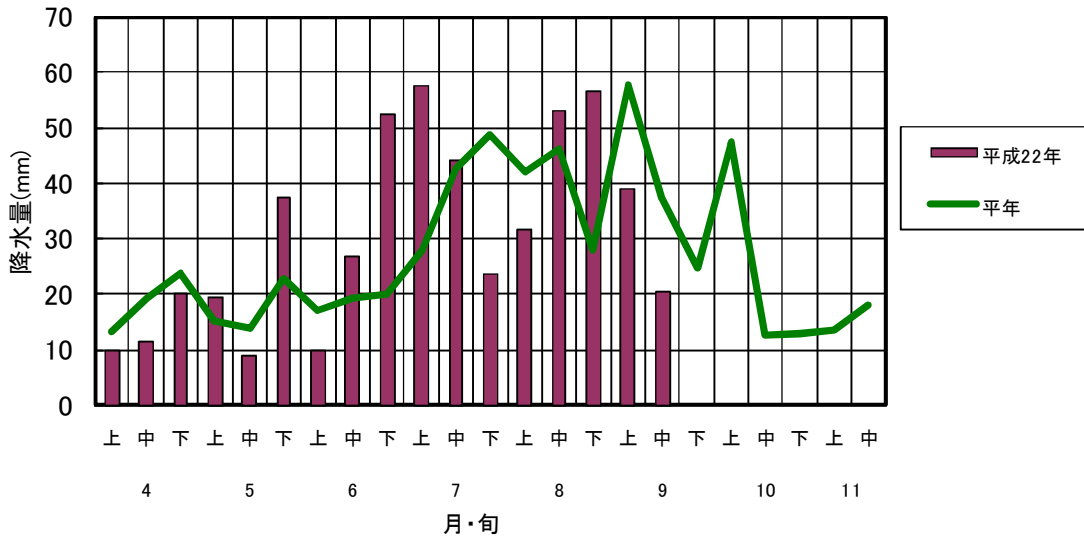
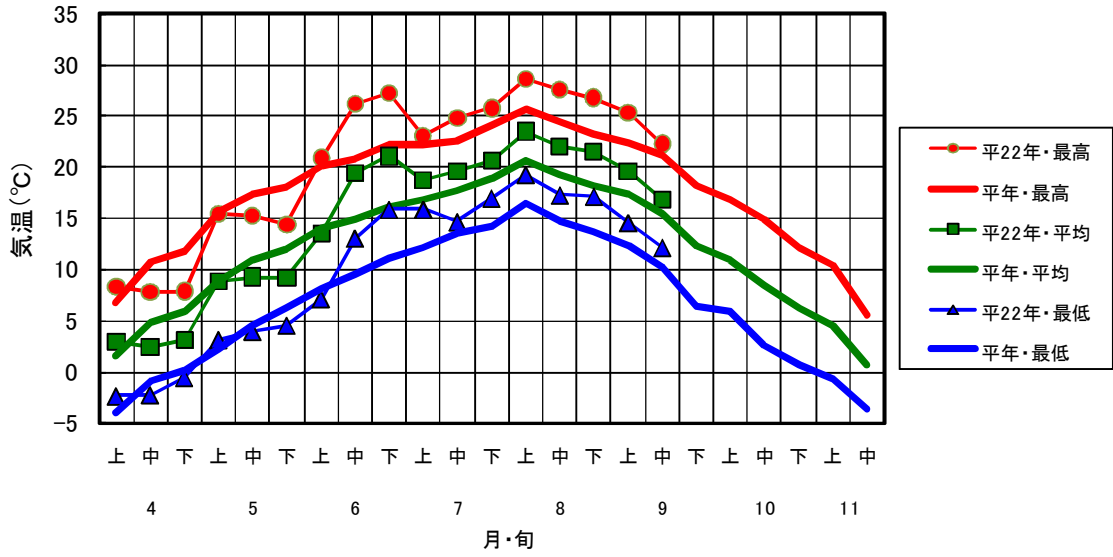
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	21.5	18.3	3.2	26.8	23.3	3.5	17.2	13.7	3.5
9月上旬	19.6	17.3	2.3	25.3	22.4	2.9	14.6	12.3	2.3
9月中旬	16.8	15.5	1.3	22.3	21.1	1.2	12.2	10.2	2.0

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	56.5	28.0	28.5	41.8	46.3	△ 4.5
9月上旬	39.0	57.7	△ 18.7	57.0	44.9	12.1
9月中旬	20.5	37.1	△ 16.6	58.0	47.7	10.3

注 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 春まき小麦 作況：不良

事由：生育期間中の気温が高く推移したため、登熟期間は平年より短くなった。そのため、子実重は「ハルユタカ」で平年比83%、「春よ恋」で86%と平年を大きく下回り、リットル重、千粒重も平年を大きく下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重 (kg/10a)	348	420	△ 73	395	457	△ 63
同上平年比 (%)	83	100	△ 17	86	100	△ 14
リットル重 (g)	784	812	△ 28	789	813	△ 24
千粒重 (g)	37.0	40.3	△ 3.3	36.4	42.2	△ 5.8

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

2) とうもろこし 作況：やや良

事由：9月20日の稈長は平年を17cm上回っている。本年は6月中旬から高温傾向で推移したため抽糸期は平年より7日早く、抽糸期後も高温に経過したことから、登熟は平年より進んでいると考えられる。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長 (cm) (9月20日)	284	267	17

注) 平年値は前6か年の平均(供試品種を変更したため)。

3) 大豆

作 況：平年並

事 由：8月下旬～9月中旬の気温は平年より高かったため、登熟はさらに進み、成熟期は平年より、「トヨコマチ」で5日、「ユキホマレ」で13日、それぞれ早かった。着莢数は、ほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.21	9.26	△ 5	9.16	9.29	△ 13
主茎長(cm) (9月20日)	65.7	62.6	3.1	63.5	62.1	1.4
主茎節数(節) (9月20日)	10.4	11.4	△1.0	10.3	11.2	△0.9
分枝数(本/株) (9月20日)	4.5	5.5	△1.0	3.7	5.0	△1.3
着莢数(莢/株) (9月20日)	65.0	63.8	1.2	66.3	68.2	△1.9

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 小豆

作 況：やや良

事 由：8月下旬～9月中旬の気温は平年より高かったため、登熟はさらに進み、成熟期は平年より、「サホロショウズ」で14日、「エリモショウズ」で21日、それぞれ早かった。着莢数は平年を大きく上回っているが、登熟期間が高温であったため、小粒化が予想される。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9. 5	9.19	△ 14	9.10	10. 1	△ 21
主茎長(cm) (9月20日)	113.8	63.2	50.6	88.1	68.2	19.9
主茎節数(節) (9月20日)	14.4	12.4	2.0	14.4	13.9	0.5
分枝数(本/株) (9月20日)	5.1	4.4	0.7	4.8	4.4	0.4
着莢数(莢/株) (9月20日)	71.0	56.7	14.3	68.0	51.9	16.1

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 菜豆

作況：平年並

事由：8月下旬～9月中旬の気温は平年より高かったため、登熟は順調に進み、成熟期は平年より、「大正金時」で7日、「福勝」で3日、それぞれ早かった。着莢数はほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.27	9.3	△ 7	9.5	9.8	△ 3
草丈(cm) (成熟期)	55.9	41.2	14.7	62.3	43.5	18.8
主莖節数(節) (成熟期)	5.0	5.3	△0.3	5.2	5.5	△0.3
分枝数(本/株) (成熟期)	5.0	4.3	0.7	5.2	4.0	1.2
着莢数(莢/株) (成熟期)	19.6	20.2	△0.6	19.5	18.7	0.8

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、21年(最豊)を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ

作況：やや不良

事由：「男爵薯」の枯ちよう期は、平年より10日早い8月23日であった。塊茎の肥大は順調に進み、上いも平均重は平年並だったが、上いも数が少なかったことから上いも重は平年をやや下回った。でん粉価は、土壌が常に湿潤であった影響を受け、平年を下回った。「コナフブキ」も、上いも重、でん粉価ともに平年をやや下回っており、でん粉重は平年比88%に留まっている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯凋期 (月.日)	8.23	9.2	△ 10		10.4	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	4226	4502	△ 276
でん粉価(%) (9月20日)	—	—	—	20.4	21.6	△ 1.2
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	820	927	△ 107
上いも数(個/株) (収穫時)	8.6	9.5	△ 0.9		9.9	
上いも平均重(g) (収穫時)	103	99	4		109	
上いも重(kg/10a) (収穫時)	3953	4196	△ 243		4784	
同上平年比(%) (収穫時)	94	100	△ 6		100	
でん粉価(%) (収穫時)	13.2	15.0	△ 1.8		21.8	

注) 平年値は前7か年中、平成15(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均

7) てんさい

作 況：やや不良

事 由：8月下旬～9月上旬の気温が極めて高かったことから、生葉数および茎葉重は前報に引き続き平年を下回っている。根重は平年を4～8%上回っているが、根中糖分は高温のため平年より約1割下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	64.7	64.0	0.7	59.1	58.4	0.7	67.1	65.0	2.1
生葉数(枚) (9月20日)	27.1	30.1	△3.0	26.9	29.9	△3.0	25.8	28.6	△2.8
茎葉重(g/個体) (9月20日)	780	915	△135	842	977	△135	839	915	△76
根重(g/個体) (9月20日)	913	875	38	1023	950	73	786	727	59
根周(cm) (9月20日)	33.9	33.1	0.8	37.6	35.4	2.2	31.1	30.8	0.3
根中糖分(%) (9月20日)	13.47	15.44	△1.97	14.28	15.62	△1.34	13.52	15.16	△1.64

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

8) 牧 草 (チモシー)

作 況：不良

事 由：1、2番草の合計乾物収量は平年比88%と低かった(8月報告)。2番草刈取り後は、8月下旬～9月中旬の気温が平年より極めて高かったものの、3番草再生時(2番草刈取後25日目：9月7日)の草丈は平年並に留まった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	48	46	2

注) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

9) たまねぎ

作 況：不良

事 由：「スーパー北もみじ」は倒伏期以降の枯葉が甚だしく、平年より21日早い8月21日に枯葉期に至った。「改良オホーツク1号」、「スーパー北もみじ」とともに球肥大は劣り、平均一球重は平年を大きく下回った。規格内率は、「改良オホーツク1号」では平年並、「スーパー北もみじ」では平年よりやや優れたものの、総収量は平年より低く、規格内収量は、「改良オホーツク1号」では平年比で17%、「スーパー北もみじ」では平年比で29%下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月.日)	8.16	8.25	△9	8.21	9.11	△21
収穫期 (月.日)	8.27	9.4	△8	9.14	9.17	△3
総収量 (kg/10a)	5883	7293	△1410	5302	7865	△2563
規格内収量 (kg/10a)	5169	6227	△1059	4782	6699	△1917
同上平年比 (%)	83	100	△17	71	100	△29
規格内率 (%)	88	87	1	90	84	6
平均一球重 (g)	222	247	△25	200	268	△68

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)を除く5か年の平均。